福祉文教常任委員会　視察報告書　　令和8年8月5日（水）～8月7日（金）　山形県

福祉文教常任委員会　　白鳥　真吾

1　高畠町議会

「オーガニック給食・オーガニック宣言について」

オーガニックビレッジ宣言を行う前に、化学肥料や農薬などに対する疑問が住民の中からあり、農民の自主・自立を目指す運動として５０年以上前から有機農業に取り組まれ、町づくりにも波及し「たかはた食と農のまちづくり条例」が制定されている。また、学校教育方針の中にも「耕す教育の実践」として農に触れる機会があり、全小学校に学校菜園があり、全学年で農業体験が行われており、地域の方が作付け指導などの農業支援を行っており、農を通じて地域とのつながりもつくられている。中学校では部活動で「農業生産部」があり、２０名を超える生徒が活動をしている。ここでも学校所有の菜園があり、地域の農家さんがお手伝いをしている。義務教育の中で、農に触れる機会があり食育という点でも重要なことである。

オーガニック給食については、有機米は年３日間、有機野菜は企画給食として３日間行われている。この他に化学肥料不使用・農薬使用は初期除草剤のみとした学校給食用特別栽培米を３ヶ月提供をしている。この学校給食用特別栽培米にもオーガニックの取り組みが反映されている。学校給食の取り組みでは学校関係だけではなく、農林課が連携をして行われている。

特に学校での取り組みは箕輪町でも取り入れることが可能であると思う。小学校では学校菜園の様子を確認し、学校菜園での活動に地域の農家さんが参加することにより、地域とのつながりもこれまでよりも広くできるのではないかと感じた。中学においても農に触れる機会をつくることが地域の農業を知るという点で重要であり箕輪町でも取り入れることが可能であると感じた。

有機農業について町全体であらゆる面で展開されていることが分かった。課題としては農家の減少などがありこれは箕輪町でも同様であると思う。その中でも取り組みが継続できているのは地域の中にある５０年以上の歴史があり、学校教育の中でも取り組まれていることから地域で何が行われているのか知ることができているからだと思う。箕輪町でも取り入れていけることについては、状況を確認して提案を行っていきたい。

2　鶴岡市　社会福祉法人月山福祉会

「農福連携・就労相談窓口の取り組みについて」

農福連携の主が野菜や果樹が中心になっているが、畜産業との連携についても検討していく必要性があると感じた。なり手不足などで畜産業が減少傾向である中で、地域の畜産事業を守ると言う点においても必要性を感じた。

行政との連携という点においては、理事長さんが元市議会議員ということもあり信頼関係が築かれていると思う。行政側の福祉だけではなく健康分野の担当課とも年１回は意見交換をしてきている。お話の中では、行政の農政分野を担当している部門で農業支援をはじめとする農福連携についての意識が遅れていると感じている。県も福祉関係は出席しているが農政分野については参加せずに後ろ向きである。ということが話されました。

箕輪町で農福連携を行う場合でも法人側が積極的に取り組んでいても、行政側が消極的であると法人と行政の連携が上手くいかなくなり、お互いに持っている情報などを共有できなくなると思う。行政側も福祉だけではなく、農政分野についても取り組みの中に参加することが重要であると感じた。また、町単独で困難な場合においては広域的な連携も検討していく必要があると感じた。

3　鶴岡市　バーンフュージョンソライ

「農福連携と教育事業について」

教育事業について、運営主体である企業が「教育こそ、希望の源であり、事業で得た資本を運用し、得た利益を教育に積極投資していく」となっており教育分野への取り組みが重要であるということが伝わってきた。今回視察をしたバーンフュージョンSORAIの教育理念には庄内地域の教えである「徂徠学（そらいがく）」が反映されており、地域の教えを大切にしていることも分かった。地域に伝わる教えを基本にしていくことは教育行政においても大切な要素であると感じた。

市の委託を受けて運営している放課後児童クラブは子どもたちの自主性を大切にしており、運営・ルール・催し物についてもこどもたちが主体となっている。全てではなくても利用するルールについては、箕輪町の放課後児童クラブには取り入れることができると思う。こどもたちがお互いのことや周りのことを考えることだけではなく、ルールを守るということも学べることが期待できる。民間であれ行政であれ熱意を持った人がいるということが重要であり、周りで支える人が沢山いることが重要であると感じた。

この視察でも民間と行政が密に連携していることが重要であると感じた。ただ運営費の補助だけではなく情報共有をすること、どのような運営がされているのかきちんと行政側が行うことで、委託先も熱意を持って行っていることが大事であり、このことは箕輪町でもできることでありこの点について町の状況を確認していく必要がある。

こどもたちが地域で大切にされていることを強く感じた。

4　酒田市議会

「不登校支援メタバース空間構築などの取り組み」

導入の経緯としては、市で様々な支援を行ってきたが不登校児童生徒数は減少していないことや、学校内外での支援につながっていない児童生徒への対応にも課題があり、教育委員会内で情報収集などを行い、メタバース空間を使用した不登校支援を実施している自治体があり検討を行い実施を決定した。メタバース空間を提供することにより、新たな人間関係を築き、個々の状況に応じた直接的な支援に繋ぐステップとなることを目指している。

実施に向けて周知を行っているが、運用が始まったばかりであり登録者数が少ないのが現状。これまでの様子を見ると空間内に誰もいないとすぐにすぐに退出してしまう傾向があり、誰かと交流することを必要としていることがあるということがわかってきたと話がありました。

箕輪町で導入するには予算の確保、人材の確保が課題になってくると思う。また、周知を行っても利用者が少ないと長期的な運用に課題が残ることが考えられる。しかし、直接会うことができない児童生徒への支援相談体制の中ではメタバースを利用することも検討する余地はあると思う。不登校の児童生徒の中には直接、人とかかわることができない児童生徒もいる。誰も取り残さない相談支援体制の一つとしては必要と考える。さらに先進地の状況を研究して行く必要がある。

全体を通じて

４カ所の視察共通して地域のために、困っている人のために何かをやらないといけない、誰１人取り残さないと言う考えがあることが分かった。また、その活動に関して熱意を持って中心となって活動されていることが分かった。行政は数年ごとに担当者が変わるが、施策や活動の継続性を重視して行われていることも感じた。

箕輪町でも展開できることもあり地域の実情を見て実施ができるように働きかけを行っていきたい。現在行っている施策の中で新たに行えることもあるので、もっと類似の施策を学び、提案をできたらと思った。